

列強国を相手に戦争に突入していくことになるのである。

日本は、十六年十二月八日米国と英国に対して宣戦を布告した。これを太平洋戦争という。戦局はアジア全土に広がり、開戦当初は有利にすすめられたが、十七年六月頃から戦局は次第に不利に展開しはじめた。戦線各地での玉砕戦・肉弾攻撃ともいべき特攻作戦なども続けられたが、戦局は次第に押しつめられて、十九年十一月遂に米軍機の本土空襲が始まった。

山口県下に本格的な空襲が始まったのは、二十年三月十九日に岩国港沖に停泊中の艦船および海岸地域が、米艦隊艦載機によって空爆されたのが最初である。その後空襲は県下各地に日まじに激しさを増してきた。徳山地方では五月十日午前九時頃、豊後水道方向から飛来してきた米軍機B29が延三四七機来襲、約一時間にわたる波状攻撃によって大被害を与えた。また、七月二十六日には同じくB29が約一〇〇機の四回にわたる来襲があって、徳山市域はほとんど潰滅状態となり、周辺の下松市・光市も軍需工場があったため大きな被害を受けた。これらの空襲の有様は鹿野町域からも見え、鹿野町の人々も頭から布圍をかぶって防空壕へ走ったといわれている。

そして二十年八月六日広島に世界で初の原子爆弾が投下され、三日後の八月九日には長崎市にも投下されるにおよんで、遂に八月十五日、満州事変以来十四年間に渡る長い苦しい戦争はポツダム宣言の受諾、米戦艦ミズリー号に於ける無条件降伏文の調印によって終結をみたのである。

近代のあけぼのは、戊辰戦争ぼしんにおける多くの隊士の犠牲によってはじまり、さらにその後各地でおきた反乱を経て漸く近代国家の成立をみたのであるが、一七年後政府の体制も未だ整わないうちに今度は外国との戦争が始まった。

明治二十七年（一八九四）八月の日清戦争、三十三年（一九〇〇）の北清事変、三十七年（一九〇四）二月の日露戦争、大正三年（一九一四）七月の第一次世界大戦、昭和六年（一九三一）の満州事変、そして昭和十二年（一九三七）からの日華

事変は、十四年九月の第二次世界大戦に引続き十六年十二月八日の太平洋戦争へと次々に泥沼化していき、二十年八月十五日の無条件降服まで続いたのである。こうしてみると近代という時代は戦争の時代であったといっても過言ではあるまい。

この多くの戦いに唯ひたすら祖国を思い、郷土を守り、愛する肉身の幸を希って、或は遠く異境の地で、或は国内の各部署で亡くなられた多くの殉国の英霊や、戦傷によって苦しんでこられた人々のあることを、今平和な時代に生きるものとして決して忘却すべからざることであり、これを正しく後世に伝える責務があると思われる。ここにこれらの戦争の概要を記すとともに、鹿野町域からも若者や壮年者が続々と戦場へと出征していかれ、そして不幸にも戦場で散華され、戦病傷されるなど多くの人々が傷つかれたことのあることを銘記し各戦争において尊い生命を失われた英霊の氏名を鹿野町芳魂録（昭和五十年十一月鹿野町遺族会作成）より転載しておく（『鹿野町芳魂録』は第六章第七節 民生の項参照）。